



朝の電車でいつもの子を見つけた  
僕の存在に気が付いていないのは有難い

僕は今日

前回想いついたことを実行するつもりだ

その思いついた事とは

ずばり痴漢だ！

いや、こっちの世界では痴女か、ややこしい

痴女は女が男にいやらしい事をする事なので

今から行うのは「逆痴女」だ  
もうわけが分からん

元の世界では絶対に体験できない事を  
今からすると思うと胸が高鳴る

さあ未知の世界へ

いざ参らん……



「はあ……」

「今日はいつものお兄さん居ないなあ……  
いつものように座るのはあ……、今日も楽しみだったのに」

「うん」

「お兄さんの鎖骨や胸元、色っぽかったなあ……  
前は乳首も見えたし……♡  
あのお兄さんがード甘々なんだもん……」

「うち女子校だから、男子高生には  
電車くらいでしか会えないし  
なんであんな所選んじやっただらう  
私の馬鹿……」

「お蔭で潤いのない灰色の青春だよ……」

「せめてお兄さんが  
毎日チラ見させてくれれば我慢できるのにな……」  
「シュル……」

「ん……、なんかお尻がすーすーするよな……」

あれ？スカート捲れてるのかな…？  
まあいいや、両手ふさがってるし  
見えても注意してくる人なんかいないよね…！

「おお…♥」

（純白おパンツ…！  
良いね…！穢れ御知らない青い果実って感じて…♥  
セーラー服との組み合わせも最高  
シンプルの方が良いんだよ…というの…！）

若いプリプリなお尻に感動して  
思わず目的を忘れてしまう

大胆にむぎゆりと尻を掴む

「まや……」

（もう何々、そんな満員じゃなくでござ……  
押さないでよぉ……）

この少女まさか自身が痴女（痴漢）されているとは  
まったく気が付いてはいない

（はぁ〜最悪う……）

お兄さんにも会えないし  
知らない女にお尻押されてるし  
っていうかいつまで触ってるのかな……）

しかし徐々に手付きがいやらしく動き始める

「ほひゃー」

（な、何？明らかに撫でまわしてる  
えっ、これ痴女…？嘘、嘘でしょ…  
こんな事ってあるの…？）

手が∞を描く様に撫でまわし  
尻肉の感触を堪能していく…

まわすわ…♡

スリスリ♡

（ああ〜♡、若いお尻…♡凄いプリプリしてる  
握ってもはじき返しててる

はあくやわつこい…♡ ずっと触ってたいなあ…！）

電車内というシチュエーションと

生々しい感触に興奮せずにはいられなかった

「はあはあ…♥」  
（布の感触がまた良いなあ  
むっちむちで触ってて飽きないよ…  
でもそろそろ僕だってばりしちゃうかな…）

「うう…」  
（やだ、振り返るの怖いな…  
世の中には逆に痴女する人がいるとは聞いた事有るけど  
こんな事するのはきつと  
オジサンが、不細工な人なんだろうな  
私のお尻なんかには必死に触ってるもん…  
はあ、踏んだり蹴ったりだよ…）

ちゅんちゅん…♥

「ハアハア…♥」  
「うう…、不覚にも気持ち良くなってきちゃった…  
私、相手が男なら誰でも良いの…？  
いくら男う気が無い生活だからって悲しすぎる  
でしょう、  
まさか自分が性的被害者になる日が  
来るなんて想像もしなかった  
お兄さんの乳首覗いたりした罰なのかな…」

もみもみ…♥

その時、耳元で囁かれる

「今日は胸元覗けなくて残念だった…？」

「!?」

「!?、え…?、あう…?  
いつものお、お兄さん…?」

「ええ…!?何これ…!お尻触ってるのお兄さん!?  
嘘、なんで、え、どういう状況…!?」

「君、何時も僕の胸元見てたよね…、  
気づかないと思った…?」

「ああ…♡、ご、ごめんなさい…♡  
で、でもこれはいいたい…?」

「分からない?、君に痴女してるんだよ…♡」

「ええ…!?、なんで…?、普通、逆じゃないですか…?  
こんなのお兄さんに何の得が…!?」

「…ってというか私が得しちゃうてますけども…♡」